第31回生物医学図書館員研究会報告：電子ジャーナルの現状と問題点、学術情報流通の可能性

谷 澤 滋 生*

東邦大学習志野メディアセンター

I. はじめに

2002年11月30日、順天堂大学を会場に、48名の参加者を得て、第31回生物医学図書館員研究会が開催された。今回は「電子ジャーナルの現状と問題点、学術情報流通の可能性」というテーマのもと、3名の方にご講演をいただいた。医学図書館の誌面を借り、研究会の報告をする。

II. テーマの設定について

誰もが簡単に全世界に向けて情報を発信できる Internet + Web (以下「Web」と略す。) という仕組みができて僅か10年程度で、研究所の研究者、大学や病院の医療従事者を取り囲む学術情報の世界は、驚くほど急速に変化し、進展を続けている。

対する印刷術はその発明から、誰もが安価に書物を手に行けるまでには、現代の感覚からすれば、驚くほどの年月を要したと言える。しかし、その過程で築き上げられた、印刷された雑誌論文を基本とする学術情報の流通システムは、多くの問題を孕みながらも、一つの完成された形として普遍性を持ち今日でも利用されている。

図書館ではこのように従来からの印刷資料を中心とする情報サービスに並行して、電子ジャーナルを提供し、新しい情報の入手先としての Web と向き合っている。特に自然科学・技術工学分野では、従来の学術情報流通システムが、今まさに電子ジャーナルを核とする Web アプリケーションに主役を明け渡そうとしている。

このような状況は、図書館職員である我々に何をもちらし、何を变え、そして我々の次のステップには何が待ち受けているのか。更には今後積極的にどのような働き

が我々に期待されるのか。この疑問への回答あるいは水先案内を求め、今回の研究会テーマを設定した。

無謀ともいえるテーマ設定に対し、限りある時間の中で、各講師から示唆に富んだ講演があった。

III. ソリューションとしての電子ジャーナル

児玉 関 (杏林大学医学図書館)

現在の①図書館、②学術コミュニケーションが抱える問題を提示し、その問題の解決手段として電子ジャーナルを位置付け、評価する形式をとったユニークな講演であった。

図書館に対して、現時点の電子ジャーナルは、何らの問題解決も示せずにいること、学術コミュニケーションでは電子ジャーナル化の普及により、その危機的状況が加速する一方、対抗策として非営利団体を中心に様々なプロジェクト (SPARC, BioMed Central, BioOne, HighWire Press, PubMed Central) が生まれ、活動していることが紹介された。

*Shigeo YAZAWA : 〒274-8510 千葉県船橋市三山2-2-1.

Yazawa@tnlib.n-lib.ac.jp

(2003年1月14日 受理)

IV. 学術出版と流通, 現状と新しい展開

増田 豊 (ユサコ株式会社)

電子ジャーナル, 電子論文 (e-print) を対象とする新しい Web ベースの学術情報流通の誕生と, その流通を担う要素としてプレプリントサーバ, Subject Gateway, コンテンツアグリゲートの果たす役割が紹介された。

また, 電子的に入手した学術情報の高度な管理・利用を実現する新しい技術 (Open Archives Initiative, CrossRef および Digital Object Identifier) とそれらを用いた製品群が実現する新しい学術情報環境の解説があり, 出版・流通の新しい可能性が提示された。

V. 学術情報の質的評価とアクセスへのハードル

金子 康樹 (トムソン ISI)

学術情報評価の一例として, 普段数字ばかりが一人歩きしている感のあるインパクトファクターについて, JCR が提供する各種指標の算出方法の詳細な説明, 数値化された各値の意味とその利用法が解説された。この講演で, インパクトファクターに代表される JCR の各

指標の正しい意味を知った参加者も多かったのではないかな。

続いて Web 等で提供される学術情報の計量的分析, 評価基準が提示された。この発表から分析法の難しさを知ると同時に, 評価基準の重要性を痛感した。

VI. 最後に

議事進行の不手際もあり, 各講師の講演で予定していた 3 時間を大幅に超過してしまい, フロアーとのディスカッション, 質疑応答ができず非常に残念であった。

しかし, 3 講演に共通することは, 急激に変化を続ける, 現在の学術情報流通を巡る環境に対し, 図書館に働く各人は受身ではなく, 本当に求めるシステムを模索し, 提案していくことが求められており, 我々の積極的な行動と提案が必要なのだと再認識した。

当日のプログラムおよび資料は, 以下の URL で参照できます。

URL : http://libweb.kyorin-u.ac.jp/~medinfo/bml_res/bml_res.html